

令和4年度 日南市立鶴戸小中学校 自己評価及び学校関係者評価の報告

(4=そう思う 3=ややそう思う 2=あまりそう思わない 1=そう思わない)

評価項目	評価指標	方策・手立て	各種アンケート					自己評価	外部評価	学校の自己評価分析	外部評価者の評価
			児童	生徒	小学校保護者	中学校保護者	職員				
【知】 確かな学力を身に付けさせます。	◎ 基礎・基本の定着と活用する力を習得させます。	・児童生徒が、わかる、できる授業実践のためのICT活用(タブレット)の研究 ・思考力、判断力、表現力を図る授業実践 ・研修等による教師の指導力向上 ・小学部の複式解消や高学年の教科担任制への取組	3.5	2.8	3.3	3.4	3.1	3	3	○ 全教諭がICT(タブレット)を活用した研究授業を実施し、宮崎大学の協力を得ながら、授業改善に努めることができた。今後は、ICTを活用しながら、さらに個々の学力向上を図る必要がある。 ○ 中学部職員の乗り入れ授業を通して、小学部の複式解消や高学年の教科担任制の取組を実施することができた。	○ 社会状況の変化に応じた教育の在り方にもまた、様々な工夫が見られます。それだけに、次への課題も不可欠です。個々への関わりを引き続き大事にしてください。 ○ それぞれの先生方がご自身の取組を厳しく評価されていることに安心するとともに、そのことが本校の高い学力につながっていると感じました。 ○ 家庭学習の課題について、宅習としてただ写すようなものにするのではなく、自主的・発展的な学習となるよう、継続的な工夫をしていただきたい。 ■ 児童生徒や保護者の満足感につながるように、小人数の学校であることを生かし、普段の授業から家庭学習まで、一層個に応じた指導の改善をしていく。
	◎ 家庭学習の習慣化を図ります。	・基礎・基本の力を高める課題の工夫 ・授業につながる課題や各自の課題解決のための家庭学習の工夫	3.5	2.5	2.6	2.4	2.7	3	3	○ 課題の点検や自主学習の内容の確認をして、個別に指導することができたが、継続的に家庭学習が充実するような仕掛けや工夫が必要である。	
	◎ 個に応じた指導や支援を行います。	・児童生徒の学習内容の定着度に応じた指導の充実 ・困り感のある児童生徒への支援の充実	3.7	3.6	3.0	3.4	2.9	3	3	○ 特別支援教育に関する共通理解を図り、個に応じた支援や指導を心掛けた。しかし、人数は少ないが、習熟の差が大きいため、なお一層の個に応じた指導の改善が求められる。	
	◎ 読書活動等を積極的にを行います。	・新聞への投稿や新聞を教材としたNIE活動の充実 ・朝の読書活動や相愛リーディングでの読み聞かせ活動の充実 ・「旅する読書」「ピブリオバトル」等への参加	3.6	3.3	3.6	3.3	3.5	3	3	○ 朝の読書の時間やたいよう号の活用など読書推進を図り、本に親しませることができた。 ○ 新聞への投稿やNIE活動など、積極的に取り組んでいるが、児童生徒数の割に個への負担が大きいため、より効率的な取り組みにしていく必要がある。	
【徳】 豊かな人間性を育てます。	◎ 道徳及び人権教育を充実させます。	・特別の教科道徳の授業内容の充実と授業実践の工夫 ・いのちの教育週間、人権週間の取組の実践	3.8	3.9	3.0	3.4	3.1	3	3	○ 特別の教科道徳の時間を工夫し充実を図っているが、今後も継続する必要がある。 ○ いのちの教育として、参観日に日南市のレインボープランを各学級で実施し、保護者にも啓発することができた。	○ 小中一貫校ならではの工夫や努力が功を奏していると思います。潮風祭、運動会等でお互いが学び合い、成長できる過程を目にすることができ、頼もしく思いました。 ○ 異学年の授業を通して、子どもたちが教え合い切磋琢磨しながら、心も育てている姿が見えました。 ■ 今年度取り組んだキャリア教育の実践を踏まえて、次年度以降も取り組めるよう計画段階から改善を図りながら、小中一貫であるよさを生かした、子どもたちに夢をもたせる指導を継続していく。 ■ 引き続き毎月心のアンケートを実施し、教育相談を設けるとともに、保護者と積極的に連携を取りながら、関係諸機関(SC、巡回相談員など)と連携し、児童生徒の悩みや不安の早期解消を図っていく。
	◎ 小中学生合同で行う活動等を計画的に行います。	・学校行事や児童生徒会での小中連携活動の充実 ・清掃活動の小中縦割りでの実施と清掃の充実 ・ボランティア活動の推進	4.0	3.6	3.7	3.7	3.8	4	4	○ 年間を通して週1回小中縦割りでの清掃活動を実施し、小中連携することができた。 ○ 潮風祭や運動会、愛のお便り運動(年3回)等の行事を、児童生徒会活動を中心に実施することができた。	
	◎ キャリア教育の充実を図ります。	・将来を見通した小中一貫のキャリア教育の実施 ・職場体験学習等の体験学習の充実 ・地域の良さと課題、生き方等を考える総合的な学習の時間の充実	3.6	3.5	2.7	3.1	3.3	3	3	○ 「宮崎の未来を築くキャリア教育研究推進事業」の実践を通して、9年間を見通した年間計画の改善を図ることができた。次年度以降も継続できるものとなるようにしていく必要がある。また、夢をもたせる指導を、引き続きしていく必要がある。 ○ 職場体験学習等の体験学習の充実を図り、地域の良さと課題、生き方等を考える総合的な学習の時間の充実につなげることができた。	
	◎ 教育相談体制の充実を努めます。	・児童生徒が相談しやすい環境づくり ・巡回相談員やSSW、SCとの連携	3.6	3.3	2.9	2.9	3.1	3	3	○ 毎月児童生徒に心のアンケートを実施し、悩みや不安の早期解消に努め、いじめ・不登校対策委員会で共通理解を図ることができた。しかし、保護者との連携において、今後とも積極的に連絡を取り合う必要がある。 ○ 関係諸機関(SC、巡回相談員など)と連携し、児童生徒の悩み等の解消に努めることができた。	
【体】 自主的な健康づくりと安全教育を実践します。	◎ 健康教育と食に関する指導を推進します。	・性教育等の充実 ・保健衛生面での指導の充実 ・給食指導の充実 ・弁当の日の実施 ・食習慣の実態調査と個別指導	3.8	3.6	3.5	3.3	3.3	4	4	○ 日常的に感染症対策に努めるとともに、日南市のレインボープランに沿って、性教育を各学年で実施することができた。 ○ フッ化物洗口やテーマを設けた弁当の日等を計画的に実施し、保健日より等で家庭に啓発することができた。	○ 南海トラフを想定した避難訓練をよろしくお願ひします。(※海に近い学校は特に重要です。) ○ 安心・安全の視点から体づくり、環境づくりへの取組が、表記の分析でよく分かりました。 ○ 児童生徒の評価からも、安心・安全な学校への取組が分かり、防災教育を繰り返されている成果が分かります。 ■ 体力向上プランをもとに、各児童生徒の課題改善のため授業改善をしていくとともに、参観日等を活用し、家庭と連携した取組も進めていく。 ■ 部活動の部員減少が懸念されるが、少年団とも協力しながら、次年度以降の部員増加を図っていく。
	◎ 健康に対する自己管理能力を高めます。	・体力向上プランの実施と個人目標の達成 ・基本的な生活習慣の定着のための指導 ・運動に親しませるための指導内容や方法の工夫 ・業間や昼休みの外遊び等による基礎体力向上の取組	3.7	3.3	3.4	2.9	3.1	3	3	○ けが等は多少見られたが、積極的に運動に取り組み、大きく体調を崩す児童生徒は見られなかった。 ○ 体力向上プランを考えた取組について今後さらに充実を図る必要がある。また、家庭と連携した取組をしていく必要がある。	
	◎ 部活動の効率的な実施を継続します。	・適度な休養と効果的な活動の工夫	3.9	3.9	3.2	3.4	3.4	3	3	○ リフレッシュデー、家庭の日、週1回の休養日を確実に設定することができた。 ○ 部員減少に係る課題について整理し、今後の部活動運営を検討する必要がある。	
	◎ 安全な学校にします。	・子どもを主体とする防災学習と諸訓練の工夫と充実 ・校内点検に基づく施設などの改善 ・危機管理マニュアルの徹底	4.0	4.0	3.5	3.7	3.3	4	4	○ 危機管理室と連携した防災学習や様々な場面に合わせた諸訓練を実施し、充実した学習にすることができた。 ○ 毎月安全点検を実施し、危険箇所については早期に対応することができた。	
【地域】 地域や保護者とともにある学校づくりを行います。	◎ 地域や保護者に信頼され開かれた学校づくりを行います。	・コミュニティスクールの実践 ・学校だより等による情報発信 ・学校評価の実施と評価の公開	3.4	2.9	3.3	2.9	3.1	3	3	○ 各学級の学級だよりや学校だより・ホームページ等により、学校の情報を定期的に発信することができた。発達段階によるものもあるが、中学部の生徒が各家庭で話をする機会となるよう、今後とも情報発信をしていく必要がある。 ○ コロナ禍ではあるが、昨年より制限を広げ、潮風祭や運動会だけでなく、オープンスクールや参観日を実施し、学校の様子を見てもらう機会を設けることができた。	○ コロナにより難しいと思いますが、できることを推進してほしいと思います。 ○ 地域との交流は、あらゆる情報を通して知ることができました。元気に飛び回る子どもたちに接する中でも感じる事ができ、地域の活性化につながるといいます。 ○ 運動会や潮風祭、参観日など、昨年度以上に保護者などが参加して、子どもたちの様子を見ることのできるようになってよかったです。 ■ コロナ禍で縮小していた行事等を、少しずつ以前のような形に戻し、地域の人材を積極的に活用しながら、地域と連携した開かれた学校づくりを進めていく。
	◎ 各関係機関等との連携を図ります。	・市教委や警察等との連携による危険箇所の把握と改善 ・火災や不審者などでの連携した危機管理 ・民生委員等のボランティア活動による児童の下校時の見守り活動	3.9	3.1	3.4	3.1	3.4	3	3	○ 警察署、消防署、日南市役所関係各課から講師を招き、専門的な立場から児童生徒に講義・演習を実施することができた。また、民生委員等のボランティア活動による児童の下校時の見守り活動を依頼し、取り組むことができた。	
	◎ 地域の各団体等との交流活動を推進します。	・地域での体験活動や交流活動の充実 ・保育所や特別支援学校等の交流学習の充実	3.9	2.9	3.5	3.6	3.1	3	3	○ いきいきふれあいサロンや花いっぱい運動を通して、地域の方々と交流を図る場面を設けることができた。また、コロナ禍で制限はあったが、保育所や特別支援学校と交流を図ることができた。しかし、地域と連携した行事については、より早い時期から計画について連絡していく必要がある。	
	◎ 地域の教育力を積極的に取り入れます。	・地域の人材を生かすための地域コーディネーターの活用 ・児童生徒の活動支援ボランティアの導入のための環境整備	3.7	2.8	3.4	3.0	3.5	3	4	○ 地域コーディネーターを通して、地域における各種連絡や調整に活用することができた。また、地域の人材を講師として招き、職場体験の事前学習を実施することができた。今後とも、多くの地域人材を多くの場面で活用していく必要がある。	

1 本年度の取組について
全教諭がICT(タブレット)を活用した研究授業を実施し、日常的に授業の中でICTを活用することができるようになった。「宮崎の未来を築くキャリア教育研究推進事業」の実践を通して、小中連携した年間計画の改善及び実践を図り、地域の良さと課題、生き方等を考えるキャリア教育の推進につなげることができた。また、防災教育に力を入れ、知識と体験を兼ねた充実した学習を実施することができた。様々な機会を捉え、地域人材や関係諸機関との連携を図り、専門的な立場から児童生徒及び教職員への支援の充実を図ることができた。

2 次年度への改善に向けて
ICT(タブレット)を活用し、さらに思考力、判断力、表現力を高める指導方法の改善に継続的に努めるとともに、家庭学習の習慣化のため、課題の出し方において個に応じた支援や指導に取り組んでいく。また、児童生徒の健全な育成のため、積極的に保護者と連絡を取りながら、今年度取り組んだキャリア教育や防災教育の取組を継続し、児童生徒に負担のない形で、地域の教育力を積極的に取り入れた活動にしていく。コロナ禍における行事等の縮小についても、少しずつ以前のような形で実施できるようにし、地域と連携して開かれた学校づくりを推進していく。